

# 県北

奥田元宋・小由女美術館や広島三次ワイナリー、陸上競技場など文化や観光、スポーツ施設が集まる三次市東酒屋町に三月、新野球場が完成する。昨年の市長選で規模や設備が大きな争点となり、完成後の維持管理費に課題も残るが、六月の広島東洋カープ公式戦の開催が決定。多くのプロ野球選手を輩出する野球場の野球少年や関係者たちは、県北のスポーツの拠点として期待を寄せている。  
(余村泰樹)

## 三次に3月完成



# 野球どころに新球場



外野席近くで、桜を植樹する場所を見せる三次中央ロータリークラブのメンバー



新球場の完成予想図

中堅百二十二席、両翼百席の千席。用地費などを含む総事業費は約三十二億円で、三月末の野席を合わせた観客席は一万六千席を予定する。

## プロ仕様カープ公式戦も

市は、カープの松田元オーナーも加えた検討委員会からプロ野球の試合が可能な球場にとの答申を受け、二〇〇七年二月から建設に着手した。昨春の市長選で当選した村井政也市長は、財政負担を懸念し、球場の見直しを公約。座席や壁の形状を変更するなど約二千九百万円の建設費削減を決めた。一方、松田オーナーと会って隔年の公式戦と二軍戦の開催を確約したとし、ナイター照明はプロ野球の基準を満たす照度二千ワットを確保。六月十七日には、三次市では五十二年ぶりの公式戦となる、東北楽天ゴールデンイーグルスとの交流戦が開かれる。三次出身の現役プロ野球選手も多く、市民は故郷での活躍を楽しみに待つ。カープでは水川勝浩投手と梵英心内野手。北海道日本ハムファイターズの二岡智宏内野手、阪神タイガースの福原啓投手、中日ドラゴンズの田中大輔捕手も中学まで三次で



3月末完成へ向けて工事が進む三次市の新野球場

## 地元RC 市民とつなぐ桜の植樹



外野席近くの遊歩道沿いなど新球場周辺に、市の花の桜を植樹する計画がある。新球場に愛着を持ってもらおうと、三次中央ロータリークラブが企画した。一本一万円で五十本分の植樹の参加者を募集したところ、六十四本の申し込みがあった。「県北から甲子園出場を祈念して」「生まれ生きてくれてありがとう」「かわいいう孫の誕生を記念して」「還暦記念」…。桜には、それぞれが思い思いのメッセージを添えた縦十四列、横十九列のアクリル製プレートを取り付ける。

同クラブ社会奉仕委員会の松本章治委員長(62)は「市が税金を使って施設を造っただけでは終わらせたくない。植樹に市民が参加し、球場とつながりうれば、何度も行ってみようという親しみがわく」と狙いを語る。

球場完成の直前に、クラブ会員と応募者が参加し、植樹を予定。市内には、県北の桜の名所の屋岡山公園、鳳徳寺の境内には赤穂義士の大石内蔵助良雄が手植えをしたと伝わるシタレサクラもある。将来、新球場周辺は新たな桜の名所としての期待もかかる。

## 世代超え

## ワクワク

地元野球関係者の新球場への期待は大きい。昨年十一月末に市内で野球少年を指導した梵内野手、福原投手も「県北の野球や子どもにも与える影響は大きい。プロ野球の試合が開催されると、これからは野球を続けよう、ああいう選手になりたい」と思ってもらえるのでは」と期待する。

球場の地元にある酒河小六年で、栗原スポーツ少年団野球部に所属する坂本太樹君(12)は「カープ戦が身近であるのでワクワクしている。三次出身の選手を応援したい」。梵内野手の母校、三次高硬式野球部の岩崎政祝主将(16)は「新球場が開かれる大きな大会に出られるよう練習したい。観客席を満員にできるくらい応援してもらえるチームになりたい」と意気込む。

草野球チーム、三和クラブの小川政寛さん(30)は「子どもとプロの試合を見に行くのが楽しみ。見るだけでは寂しいので、三次のチームで観る大会を開くなど、市民が利用できる球場にしてほしい」。新球場でのプレーやプロ野球観戦を心待ちにしている。